

# 令和2年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査－5号)

農林総合研究センター  
令和2年6月23日調査

## 気象経過

< 平年対比 >

### 【平均気温】

- ・ 6月第3半旬は、金沢、輪島ともにかなり高い（平年差：金沢+2.4℃、輪島+3.1℃）
- ・ 6月第4半旬は、金沢は並、輪島は高い（平年差：金沢-0.1℃、輪島+0.6℃）

### 【日照時間】

- ・ 6月第3半旬は、金沢はかなり少なく、輪島は少ない（平年比：金沢 38%、輪島 55%）
- ・ 6月第4半旬は、金沢、輪島ともにかなり多い（平年比：金沢 128%、輪島 146%）

### 【降水量】

- ・ 6月第3半旬は、金沢、輪島ともにかなり多い（平年比：金沢 841%、輪島 280%）
- ・ 6月第4半旬は、金沢は少なく、輪島はかなり少ない（平年比：金沢 60%、輪島 0%）

### 【1ヶ月予報】

6月18日発表の1か月予報（6月20日～7月19日）では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、高い確率50%です。

## 生育概況等

### 【本田の生育】

#### 1. 予想出穂期（早生品種）

早生品種ゆめみづほで幼穂が確認されている（0.5～7mm程度）。

ゆめみづほの出穂期は加賀地域で7月16日頃と平年に比べ3日程度早く、前年並、能登地域（羽咋～中能登）では7月20日頃と平年に比べ2～3日程度早く、前年に比べ2日程度遅いと予想される。

また、能登地域（奥能登～珠洲）の能登ひかりの出穂期は、7月23日頃と平年及び前年に比べ1日程度早いと予想される。

#### 2. 草丈

ゆめみづほは平年比118%（加賀地域117%、能登地域121%）と長い。

コシヒカリは平年比120%（加賀地域121%、能登地域118%）と長い。

#### 3. m<sup>2</sup>当たり茎数

ゆめみづほは、平年比96%（加賀地域100%、能登地域89%）と平年並で前年に比べ少なく、前年より早く最高分げつ期を迎えると予想される。

コシヒカリは、平年比97%（加賀地域97%、能登地域103%）と平年及び前年並。

### m<sup>2</sup>当たり茎数（平年、前年）及び株当たり茎数

品種	地域	平年	前年	前年比	株当たり
コシヒカリ	県平均	502本	486本	97%	28.2本/株
	加賀	489本	460本	93%	27.5本/株
	能登	521本	550本	103%	29.2本/株
ゆめみづほ	県平均	545本	524本	96%	30.3本/株
	加賀	582本	582本	100%	33.1本/株
	能登	473本	447本	89%	26.0本/株

#### 4. 葉齢

コシヒカリは平年に比べ+0.1葉（加賀地域±0.0葉、能登地域+0.3葉）となっており、葉齢展開からみた生育の遅速は、平年並～平年に比べて1日程度早いと見込まれる。

#### 【病害虫の発生状況】

いもち病の発生は確認されていないが、今後の発生はやや多と予想されている。

現在の雑草地における斑点米カメムシ類の発生は平年よりやや多く、斑点米カメムシ類の発生は多と予想されている。

[病害虫発生病害虫発生予報第3号（令和2年6月18日付）参照]

#### 当面の対策

1. 早生は中干しを終了し、以後、間断通水による飽水管理とし、根の機能低下防止に努める。
2. 中干しの継続
  - (1) **中生のコシヒカリ、晩生のひやくまん穀**については、稲体の健全化、弱勢分けつの発生抑制と有効茎歩合の向上を図るため幼穂形成期まで中干しを確実に継続し、穂肥を施用できる稲体へ誘導する。
    - ① コシヒカリ：7月5日頃まで中干しを継続する
    - ② ひやくまん穀：7月15日頃まで中干しを継続する
  - (2) 用水の不足が心配される地域では、漏水を防止し、計画的な水利用に努めるとともに、強い中干しは避け、飽水状態を保つ水管理を実施する。
  - (3) 圃場内への効率的な入水を実施するため、溝切りを行なう。なお、溝切り間隔は圃場条件に応じ3～5mとする。
3. 幼穂形成期（出穂前25～15日）に18℃未満の最低気温が予想される場合は、水深10cm以上の深水管理とし、不稔籾の発生防止に努める。

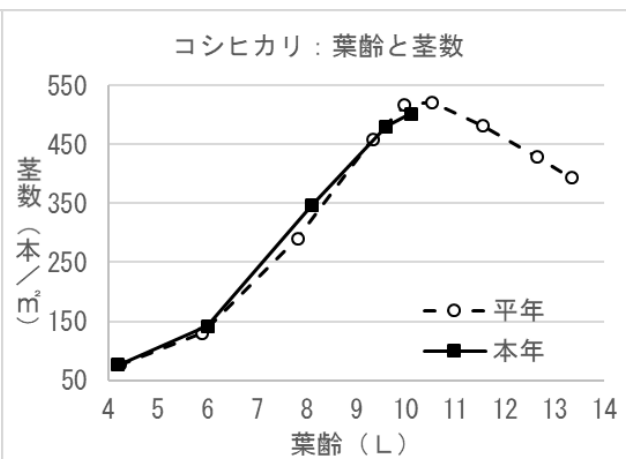
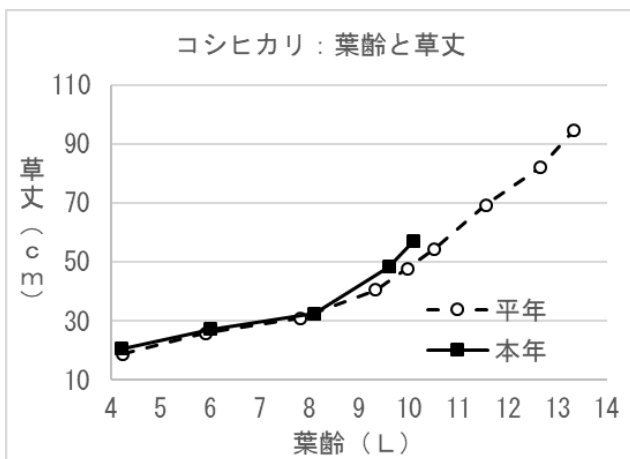
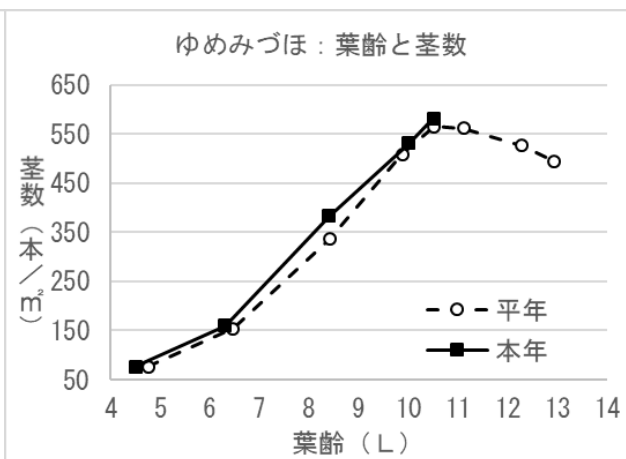
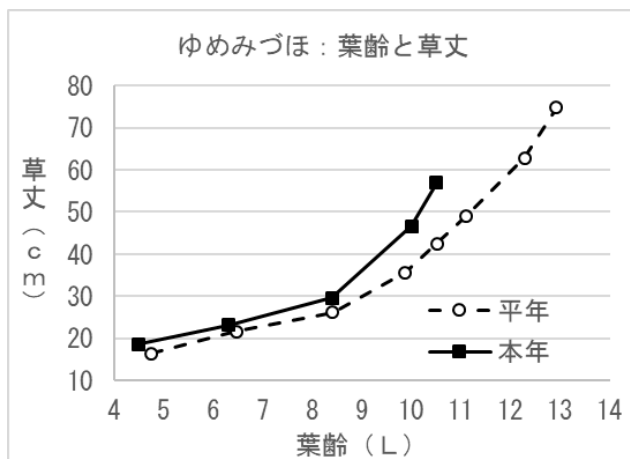
○早生品種の耐冷性：五百万石（弱）、ゆめみづほ（中）、能登ひかり（中）
4. 早生の1回目の穂肥は、幼穂長で適期（ゆめみづほ：1～2mm出穂23日前、能登ひかり：2～3mm出穂20日前）を確認し、遅れずに施用する。ただし、茎数が多く、葉色が濃いほ場（葉色板4.0を超えるほ場）では、1回目の穂肥を減量して施用し、2回目は出穂7～10日前に基準量を施用する。
5. 稲体の健全化を図るため、ケイ酸質資材を直ちに施用する。
6. 病害虫防除
  - (1) いもち病の発生はやや多と予想されており、一旦発生すると急速に進展する恐れがある。発生状況の把握に努め、発病が認められたら直ちに防除する。
    - ① いもち病の箱施薬が行われていないほ場、いもち病の常発地及び葉色の濃いほ場を中心に巡回を行ない、葉いもちの早期発見に努め、発生を認めたら直ちに防除を行う。
  - (2) 晩生のひやくまん穀の防除適期は出穂期を予想し、中生のコシヒカリと異なることに留意して、基幹防除を実施する。
  - (3) **紋枯病については、前年発生した圃場、茎数の多いほ場では多発する可能性があるため防除を実施する。薬剤によって防除適期が異なるので、使用薬剤の基準に従う。**
  - (4). 白葉枯病の防除については、過去に多発した地域で予防剤を箱施薬していない場合は、予防剤を6月20～30日に散布する。
    - ① 大雨により冠・浸水したほ場では、できるだけ早くほ場の排水に努めるとともに、冠水したほ場では病害の発生が懸念されるため、排水後もほ場巡回を行い、早期発見に努め防除を徹底する。

- (5) 斑点米カメムシ類の防除については、発生密度を下げるため、生息場所である農道、畦畔、休耕田および遊休地等の除草を徹底する。除草を集落など地域全体で一斉に実施すると密度低下の効果が高い。なお、刈り払った雑草は用排水路に入らないように注意する。
7. 今後も高温傾向が続くと予報されており、いずれの品種も出穂期が早まり、更に刈取適期も早まることが予想される。品質低下を防止し、適期に刈取作業を終了できるように共同乾燥施設の稼働計画等の作成を行うこと

。

<参考：草丈の伸長および茎数の増加傾向>

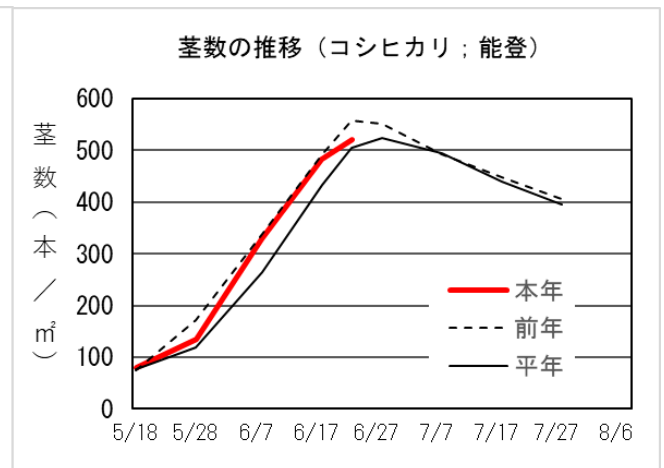
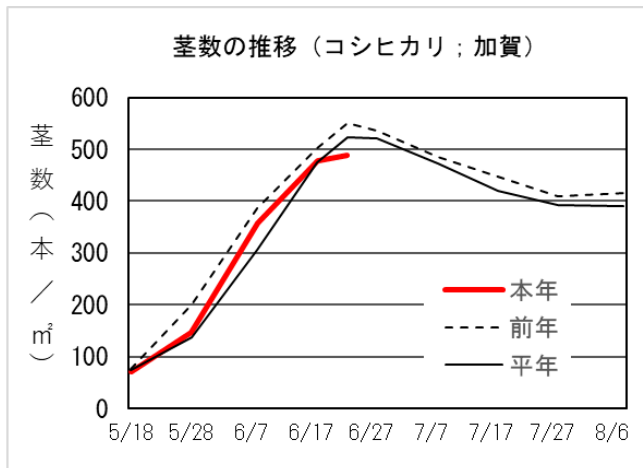
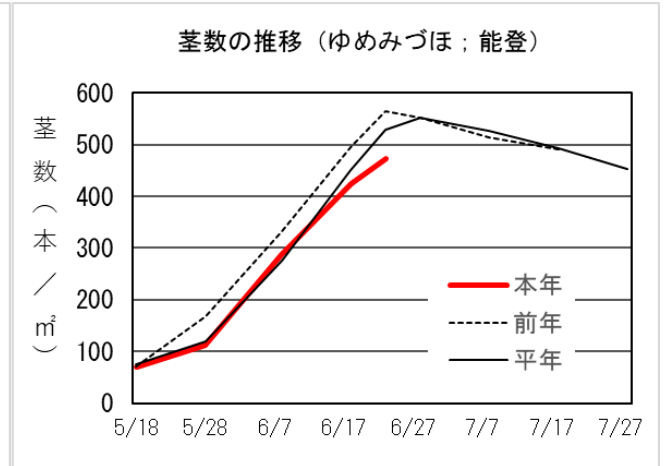
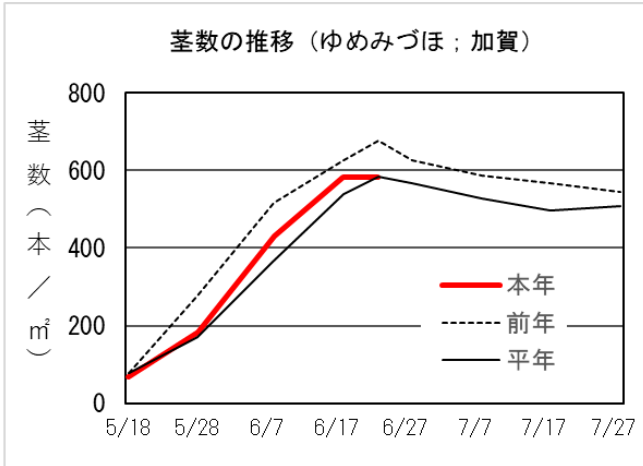
- ・葉齢を基に草丈の伸長および茎数の増加を平年と比較すると、  
 ゆめみづほ、コシヒカリのいずれも草丈は葉齢展開に比べ長くなっているが、茎数は葉齢展開に見合った本数となっている。



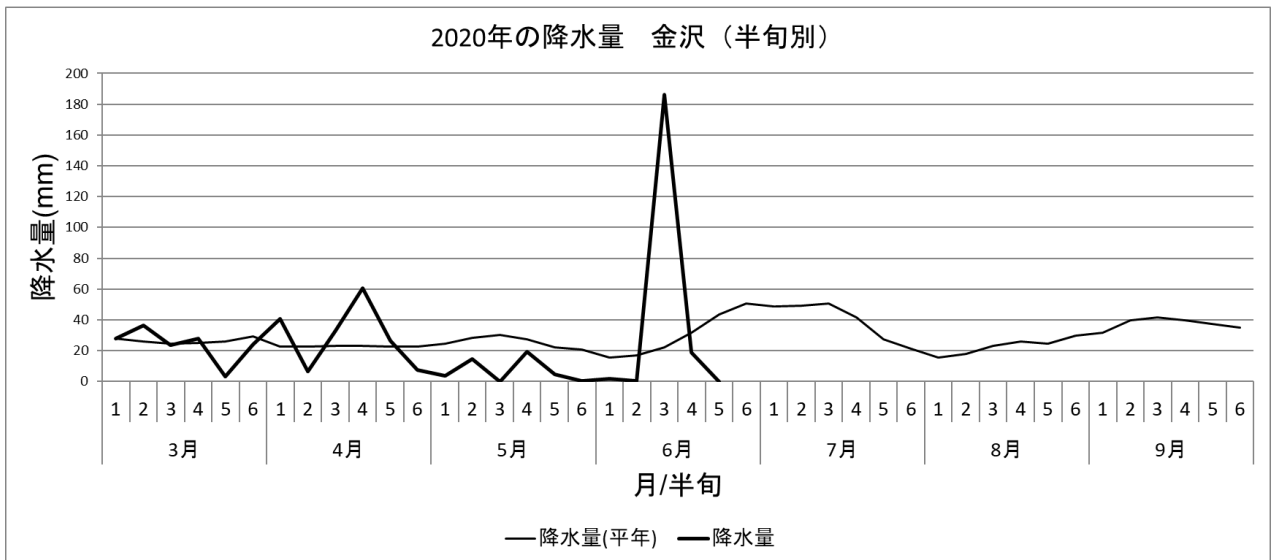
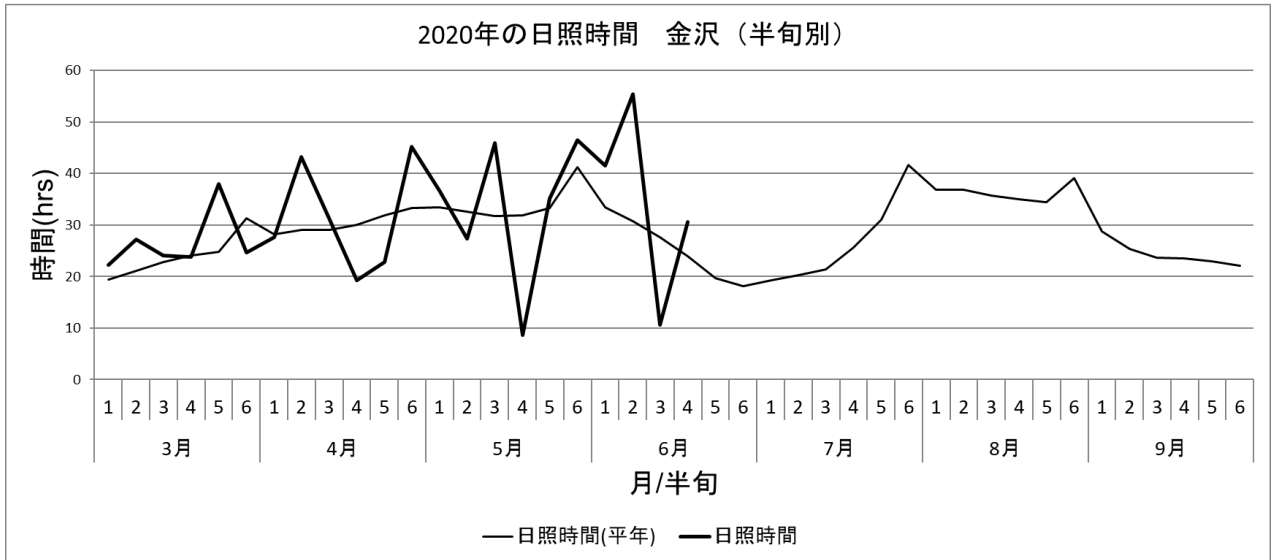
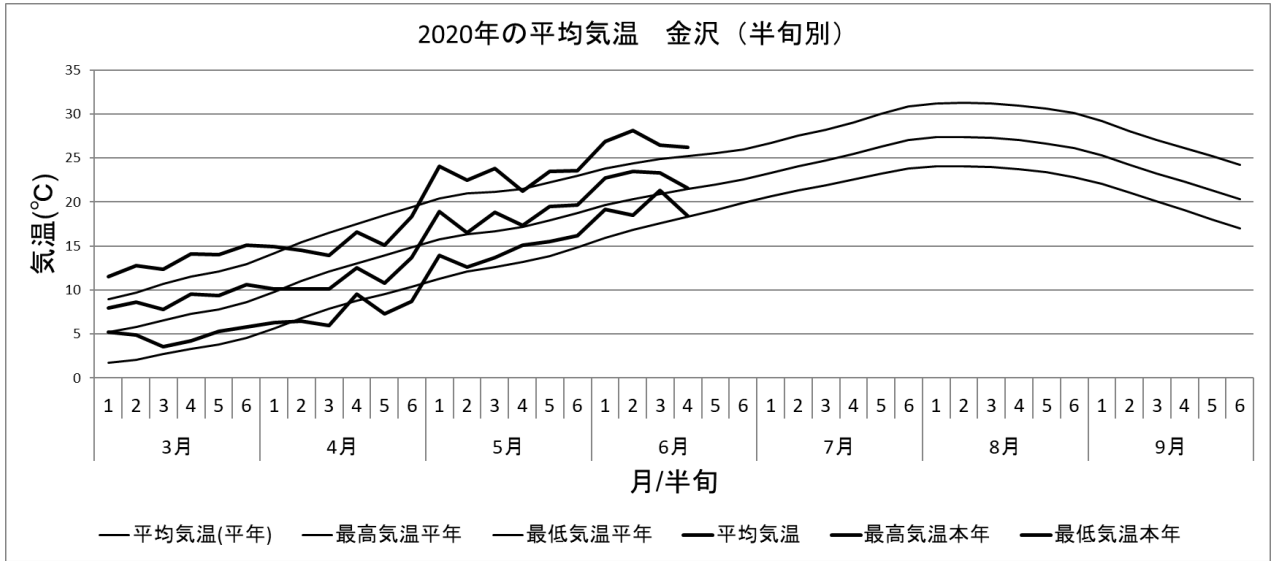
- また、調査日を基にゆめみづほ、コシヒカリの茎数増加を平年及び前年と比較すると、ゆめみづほは平年並で前年に比べ少なく、コシヒカリは平年及び前年並となっている。

＜最高分げつ期＞

- ゆめみづほでは、加賀地域は平年及び前年より早く、能登地域は平年並で前年に比べ遅くなる見込みである。
- コシヒカリでは、加賀地域、能登地域のいずれも平年及前年並と見込みである。



# 気象経過イメージ（金沢气象台）



# 気象経過イメージ（金沢気象台）

